

2026-2027

■本日のロータリーソング
君が代、四つのテスト

WEEKLY BULLETIN

10月1日(木) 第11号
第3174回 例会

札幌東ロータリークラブ TODAY'S PROGRAM

道産子からメダリストを。～夢を仕組みに変える挑戦～

NPO法人Dosapo代表理事 伊藤孔一氏 TEAM BUMPS 佐藤青葉 選手



ガバナー公式訪問 RI第2510地区ガバナー 古野重幸氏

45クラブ目の公式訪問であります、大変緊張しております。立礼でドアオープンでの入場は初めてであります。会長幹事会が前段であったのですがそちらが終わったら早めに会場に入り、名刺交換や雑談をしてアットホームに進めたいとお願いしたのですが、歴史と伝統のある札幌東RCの決まりとして、ガバナーを迎えるときはドアオープンで立礼ですと言われ、それだけでも大変緊張しております。また、ロータリーソングを会員の皆様で歌っていただき、ありがとうございます。

まずは本年3月に開催された、PETS・地区協議会のホストクラブを札幌東RCに務めていただきました。完璧でスムーズな運営、さすが札幌東RCだと思いました。感謝いたします。また、昨年度札幌東RCは Every Rotarian, Every Year という財団に対する素晴らしい貢献をしていただきました。100名規模のクラブにおいて、このアワードを得られるケースは稀であり、心から御礼を申し上げます。

先日、塚原房樹パストガバナーがご逝去されたお知らせを聞きまして、大変ショックでありましたし、札幌東RCや2510地区、日本のRCにとっても巨星落つと言っても過言ではないと思います。ロータリーの知識について泉のように溢れ出てくる言葉、何度も話を聞きましたがその度に感銘を受け、ロータリーの知識を高め、ロータリーは素晴らしい組織なのだということ、これからの方向性についても薫陶を受けました。諮問委員会というパストガバナーが集まる会が年に3、4回開催されるのですが、国際ロータリー(以下RI)に対する人頭分担金を規定審議会で値上げすることが決定し、そのことが話題になった時に、塚原パストガバナーが私の正面に座っていたのですが、RIの前にクラブがあると話されていました。つまりRCが先にできて、その後必要に応じてRIができたのだと。そこに塚原パストガバナーの想いがあると思います。近年肥大化するRI、官僚的になっているRIに対する危惧を何度も述べられています。私も微力ではありますが、塚原パストガバナーの想いを受け止めて、素晴らしいRCが今後も続くように頑張りたいと思います。

自己紹介です。私は札幌市の生まれではなく栗山町の生まれです。父もロータリアンでチャーターメンバーとしてクラブ会長を2回務めました。16歳の時にこの地区から交換留学生としてオーストラリアに行きました。今から52年前、1974年のことでありますが、この年は交換留学生という制度がRIの正式なプログラムとして承認された年であります。ですので、私は交換留学生の第1期生かもしれません。その

後52年経った今でも交流が続いています。今年も2組のホストファミリーの家族が日本に来てくれます。私も何度もオーストラリアに行きました。お世話になったロビンバールRCは1958年(昭和33年)設立、札幌東RCよりも1年前の設立になりますが、私が生まれた年に設立されたクラブです。今から18年前の50歳の時、すなわち設立50周年の年に、ロビンバールRCから設立50周年記念式典の招待状が届き、妻と一緒に行ってまいりました。そのような関係が続いていることが私の自慢でもあり、楽しみでもあり、喜びでもあります。交換留学生としての貴重な1年が私のその後の進路に大きなプラスになりましたので、大きな御恩に対して少しでも恩返しができるようにガバナーの職を務めてまいりたいと思います。

45カ所クラブを訪問し、ロータリーの原点の話や、ロータリーを楽しむにはどうしたらよいのかという話をしてきましたが、今日は諸先輩も多く、歴史と伝統のある札幌東RCの中ですので、あまりその様な話はせずにロータリーや地区協議会の運営の話について私の考えを話したいと思います。ロータリーの原点で1つだけ大事なこととして皆様に伝えているのは職業奉仕です。塚原パストガバナーの信念でもあったと思います。職業奉仕の大切さ、小樽RC、札幌北RC、函館亀田RCの例会場の前には、ENTER TO LEARN, GO FORTH TO SERVE、という標語が掲げられています。例会場に入って学び、例会場から出て一人ひとり職業を通じて奉仕活動をしてくださいという意味です。ここは、自らを磨く人生の道場であり、職業人としての道徳やスキル、様々な奉仕の心を高める場である、クラブとして奉仕をするのではなく、それぞれが、家族に、会社、地域社会に奉仕するのだということです。職業奉仕というのはロータリーの原点であったはずで、親睦があり、職業奉仕があり、その2つの土台の上に社会奉仕、国際奉仕、青少年奉仕という柱を立てて立派な家を建てました。しかし土台にある職業奉仕の概念は国際協議会にいても、一切コンセプトが語られることはありません。近年のRIの会長からも、職業奉仕という言葉が出たことはありませんし、重要だという話が他の役員から出ることはありません。今のRIにおいて職業奉仕の概念は消えてしまっているようです。私は1人のロータリアンとして今後も日本のロータリーが存続発展していくためには、ロータリーの原点である職業奉仕の概念を復活させることが大事なことだと考えています。RIの対外的な目標はポリオの撲滅、対内的な目標は会員増強です。2016年に柔軟性が決議され、

会員の身分が変わり、例会の在り方も変わりました。月2回例会を行えばよいということになりました。ローターアクトをロータリアンと同じ身分にしました。京都RCは40人の入会待ちの人がいるそうです。決してエリート主義や選民主義を言っているのではなく、ロータリーは職業人としての心を高めて、社会や企業、家族に奉仕する。そういうことができる場であるからこそ価値があると思うのですが、RIは逆の方向に進んでいて、どんな人でも入会しても良い、数さえ増やせばいいという考え方になっており、その考え方に私は賛成ではありません。

地区協議会の重点活動方針についてですが、方針は玉井直前ガバナーが示した方針と全く同じであります。楽をしようとしたわけではなく、1年でできることはあまり無く、継続性が大切であると考えており、玉井直前ガバナーの方針は時を得たものばかりでしたので、そのまま受け継ぎました。そこで皆さんに1点だけお願いしたいことがあります。65クラブのうち、20人未満のクラブが18クラブあります。そこでは年30～40回の例会プログラムを組むことに大変な苦勞をしています。会員卓話と言っても人数が少ないクラブは人選に困っており、外部卓話者も遠い地方のクラブまで来てくれないことが多い。そこで皆様をお願いしたいのが、メンバーはそれぞれ職業人として専門的知識を持っています。それぞれの専門家を2510地区のホームページに登録をして外部卓話の依頼をしてもらうという方法を考えています。例会が充実していないとメンバーが辞めてしまいます。会員増強、退会防止のポイントになるのが例会だと思います。あまり対価は出ないと思いますが、ロータリーの友情で是非とも登録をしていただければと思います。

地区協議会運営方針について、こちらは小樽RC、札幌東RCと大きなクラブにしか話していません。運営の効率化を徹底し、タイムパフォーマンスを高めたいと考えています。3月のPETSと4月の地区協議会を同じ日に開催しました。これは、PETSと地区協議会において重複や不必要なものを省き、必要な要素は全部含まれているということを確認したうえでの開催になります。同日開催にした理由としては、遠方の地域の会長と幹事が3月に札幌に来て、4月にも札幌に来る。これだけでも大変な時間とお金がかかります。札幌に来ると宿泊代が高い。遠方からPETSと地区協議会のために2回札幌に来るということを止めたいと考えておりました。もう一つは五大奉仕委員長に地区協議会に来ていただきませんでした。毎年委員会の活動内容が変わるわけではありませんので会長と幹事は全て委員会活動のことを理解しています。会長と幹事が委員長も兼務しているクラブが沢山あります。10人しかいないクラブで五大奉仕委員長の出席を求

めたならば全員出席しなければいけなくなる。65クラブの会員が遠いところから2回も時間とお金をかけて札幌に来ることについてタイムパフォーマンスがあるとは思えず同日開催にしました。これで地区協議会の予算が200万円浮きました。お陰で玉井年度の収支決算が360万円程の黒字になりました。クラブが地区協議会に払う地区分担金を値上げしようという話がありましたが、私はそれに反対でした。値上げをしないということでスタートしておりますので、様々なところで節約をして赤字にならないようにしたいと思います。

また、本年度はクラブアッセンブリーを行いませんでした。例年ですと会長幹事会を1時間行った後、ガバナーが全委員長を集めてクラブアッセンブリーを行います。今年度の方針、活動状況を報告してガバナーがコメントをする。クラブアッセンブリーには何度も出ておりますが、あまり意味を感じません。慣習でクラブの要覧、定款を出してもらうのですが印刷代がもったいないと感じます。全国34地区をみると、ガバナー公式訪問の際にクラブアッセンブリーを行っているのは2510地区くらいです。他の地域はガバナー公式訪問の前にガバナー補佐が自分の担当クラブを回って、クラブアッセンブリーを行って委員会報告を聞きます。問題があれば、事前にガバナーに伝え公式訪問の際に対応策と一緒に考える、それが普通のやりかたなのですが、いつからか、ガバナー公式訪問の時にクラブアッセンブリーを行うようになりました。決してタイムパフォーマンスはよくありません。他にも様々な無駄を省いており、大改革ですねと言われますが私はそうは考えておらず、最終的に地区協議会に対する各クラブの経済的、時間的な負担を少なくしたいと考えているだけです。羽幌RC、人口は少ないですが会員数30名と一人当たりの組織率は地区No. 1であります。ですが、経済的には大変厳しいです。夜間例会を月1回行ない、食事代として2,000円を会場に支払います。飲み放題の2,000円を付けて4,000円で会場からはお願いされておりますがそれを断り、最低限の食べ物だけを用意してもらって、飲み物は自分たちで用意、会場の地下に冷蔵庫を借りて、例会の都度お酒を自分たちで用意している。それが一番安い方法だということです。そういうクラブが実は沢山あります。ですので、私は大改革をしようとしているのではなく、費用対効果、時間対効果を高めクラブから地区協議会に対する負担を減らしたいと考えております。

地区協議会の方法についても問題があると感じます。札幌南RCの経営者の方で良く知っている方なのですが私がガバナー補佐の時に会長を務められて、地区協議会とPETSに初めて出た時、この会議はなんなのかと、延々と続く1日半の会議に対して質問を投げかけてきました。良識のある経営者は無駄を感じる時間であります。地区協議会自体を不要だと言っているわけではなく絶対に必要なものですが、出来るだけ無駄を省きたい。例えば、10くらいに分かれて分科会を行います。こちらは大変有益なもので、会長同士話す機会はプラスになります。幹事の時も運営上の悩みを他のクラブから聞く機会は大変有益です。問題はその後、分科会報告を行いますが大体話が長くなりますので各々5分ほど話す、それが10分科会で合計50分間。この時間が耐えられま



せん。30代から40代の経営者をロータリーに誘うとき、この会議を見せたら誰もロータリーに入ろうとしません。そういうことを止めていきたいと考えております。

ロータリーには楽しい時間、有意義な時間もあります。FSMや夜間例会、今日は天気が良いので外でビールを飲みながら例会をするのも楽しいかもしれません。有意義な時間であるRLIは素晴らしいプログラムです。本年度は函館で実地での開催ですが大変意義のあるものです。つまらない時間を少なくしたい。そうでなければ会員は辞めていきます。小林博パストガバナーは気楽にロータリーを楽しみなさい、真面目に考えたらこんなにつまらないことは無いからと仰います。何故会員が辞めていくのか、それはつまらないからだと言うのです。会費が高いから、時間がかかるからではなく、つまらないから辞めていく。ロータリーに入って楽しいか、意義を感じるかで意識は変わると思います。これからも運営の効率化を行っていきたいと思いますので、皆様のご理解とご支援をいただきたいと思います。そうでなければ、来年またいつものやり方に戻ってしまいます。札幌東RCのような大きなクラブの支持をいただかなければすぐに元に戻ってしまいます。

地区委員会主催の事業には、報告書を2週間以内に出すように決めました。この報告書は実に簡単なものであり、A4用紙1枚です。①事業概要 ②工夫改善したこと ③成果と反省点 ④次回実施の際の改善点を記載しますが、こちらを全てファイリングして、次年度のガバナーに渡そうと思います。こうすればタイムパフォーマンスが年々向上すると思います。地区協議会や事業についても私が入会した28年前と全く変わりません。単年度ですので、前年踏襲型で何も変わっていません。私の前職はトヨタ自動車ですが、前年と同じ計画を立てると見てもくれない。昨年との違いがないと前に進めません。簡単な報告書を各委員会必ず提出しPDCAサイクルを回してくださいと言っています。これを毎年行くと必ず5年後素晴らしい事業になると思います。

先程、会長幹事会で札幌東RCの事業を聞き、大変素晴らしいクラブだと思いました。札幌東RCが送り出した交換留学生は100名を超えるとのこと。昭和34年設立ということは、67年間で100名を超える留学生を送り出している、そんなクラブが全国にあるのでしょうか。それに対する基金もある。ナシオ基金もある。私の所属する札幌RCと比較してしましますが、札幌東RCの事業は大変素晴らしいと思います。

最後に、この公式訪問がスタートする前に、遊び心でAIに25分間のスピーチを考えてもらいました。

Discover your joy in Rotaryという私のメッセージを中心にスピーチを組み立ててもらいました。今日の私のスピーチの何倍も出来栄の良かったのですが、そのメッセージの冒頭を紹介します。

「Discover your joy in Rotaryという言葉に私はもっと深い意味を見出しています。それは与えることの中に喜びを見出すことです。」この言葉に私は驚きました。これはまさにロータリーの神髄であると思うのです。若い経営者をロータリーに誘う際、これだけの時間とお金を費やして奉仕活動をして何か良いことがあるのかと問われることがあります。それに対する答えは、ロータリーは与えるところであり、受け取る場所ではない、そういう気持ちでロータリーにいないと長続きしないよ、と説明するかもしれません。

他に、One Profits Most Who Serves Bestというロータリーの標語もあります。最もよく奉仕するものが最も多く報われるという意味なのですが、このProfitとはなんだろうと考えるときふと疑問を感じます。ロータリーは与えるだけで受け取るものではないはずなのに、奉仕をしたらどの様なProfitがあるのか。そこで塚原さんの書籍に戻りますが、ロータリー通解(ガイ・ガンディカー著)を引用して、Profitとは金銭的なものでも何物でもない、全てのロータリアンが最も立派な人物、もっとスケールの大きな人間になり、自己に対し、仲間に対し、社会に対して、もっと優れた奉仕をする機会が沢山与えられることがProfitである、と書かれています。私は感動しました。自分自身の成長が報いなのだと教えてくれています。例会を中心に仲間と集い、親睦を深めながら、自らを磨き立派な自分になって他人に奉仕する。それがロータリーの神髄だと思います。

札幌東RCの益々の発展を祈念しております。

